



第1号
酪農学園発行
北海道江別市西野橋582
印刷所
凸版印刷株式会社

酪農学園の建学精神

三愛主義とは何か

酪農学園園長 黒沢西蔵



黒沢西蔵園長

酪農学園は酪農を通して日本はおろか、全人類の福祉向上に貢献し得る人材をばくくみ育てる使命を持つ本邦唯一の実学習得の教育機関である。

したがって、私は建学の精神を何に求めるか、と自らに問うたとき、聊かも躊躇することなく、三愛主義をもって学園に生命を吹き込み、理想を与え、そのバックボーンとすることにしたのである。

神を愛し、人を愛し、土を愛す、という三愛主義は古今東西永遠不滅の真理に照し、断じて恥じるところがない。

それどころか、この三愛主義をもって再興したのが我等の理想郷福地平和国家デンマークである。私は偉人グランドビーにない、日本再建の折りをこめて、三愛主義をもって酪農学園の建学の精神としたのであり、これを体得させ、実践する人材を輩出させることを使命とした学園でなければ存在価値はないと確信している。

聖パウロがコリント人へ書き送った手紙には次のように記してある。「山を移すほどの強い信仰があっても、全財産を人に施しても、自ら焼かれるために泰然と火中の人となっても、真の愛がなければ全ては無益である」と。これは怖るべき言葉であり、断言ではないか。

聖パウロの教を聞き、「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、全てを忍び、全てを信じ、全てを望み、全てを耐える。愛はいつまでも絶えることがない」と。

私の知識も力も、全知全能の神から見ればごく一部に過ぎない。だから必ず滅びる。しかし、信仰、希望、愛は永遠に存続し、このうち最も大きなものは愛である、と教えている。私はこれは真理だと思ふ。

この手紙を読むたびに靈感を覚え、永遠不滅の光を見る思いがするのである。

それでは一体「神を愛す」とはどういうことか。これは善人になりたい、聖人君子になりたい、結局は神人一体にまで到達したい、よしんばそこまで行かない、ともいふ善なる人間の願望だ、という善なる人間の願望だ、と私は思う。愛神とは善なる行

あり、努力、精進、修養鍛錬を為すことである。聖パウロの如き人でも「ああ我々悩める人なるかな」と嘆息しているほど人は弱いものだ。

良い行ないをしよう、しようと思いつながらちよつと油断しているあいだに自分でもあきれかえるほどの罪深い行ないに走る。それが人間というものののだ。私もそうだ。

ちよつとの油断に善心は消え直ちに悪心がはびこる。そもそも、人間は善心と悪心の二心を持つものであることを悟り、常に心掛けて善なる心を刺激し続けられ、遂に悪しき心はかげをひそめ、私の心は全部善になる。この努力を続けること。即ち愛神であらう。西郷南州先生の信条であった「敬天愛人」の敬天とは愛神と同じであり、これを実践する境地ではあるまいか。

また「人を愛す」ということは「神を愛す」という徳目に比べると判りやすい気がする。しかし、問題はその実践である。己れに好意を寄せるものを愛す

酪農学園が創設されてから既に二十七年の星霜を経ているが、その前身の義塾時代を併せると実に三十六年になる。その間当学園は実践教育によって幾多有能な人材を世に出し、極めて幼稚であったわが国酪農の発展に多大な貢献をしている。また時代の進展と社会の要求にこたへるために酪農高校より短大、大学三愛女子高校、自動車学校、短期大学、酪農学校等、量質両面の教育に向けて黒沢園長始め教職員が真に一体となって荊棘の道を切り開き、今やわが国における唯一の酪農専門の教育機関として万人の認めるところとなつたことは誠に喜ばしい次第である。



野幌原始林を背景に展開する酪農学園

合理的営農の確立に挺身している姿は、実に驚嘆と敬服を禁じ得ない。また乳業界は元より各種農業団体、官公機関その他の企業にも卒業生が幅広く分布され、それぞれ重要な職責を荷って活躍し、注目をひきつつあることも欣快に堪えないと同時に、わが学園の大きな誇りである。

半世紀前には国民に顧みられなかつたわが国の酪農も、今や農政上と国民食生活上の重要な国家的課題として政治、行政の各面から真剣に取り上げられ議論されるに至つたことは往時を顧みても全く隔世の感がある。しかも過去十数年間にわたり酪農の目覚ましい発展により、遂に欧米先進国の小国を

が、私は真に人を愛すること、に徹すれば戦争の如き力の争いは必ずこの世から抹殺することのでき得ると信じている。愛なき禽獣の世界を支配する法則は力のみであるが、人間社会では自他相愛をもって天法となしければならない。これは本能的欲望に身をゆだねた場合、決して到達できない境地であり、己れを愛する如く、己れの欲するところを他に施し、愛するのでなければ人間ではない。それにはまず、人をわけへだてしない人間にならなければならないのだ。

次に「土を愛す」とは何か。愛土とは人類の母体である土、母なる大地に心血を注ぎ、これを豊かにするということである。人類はこの世に誕生して少くとも百万年の才月を経て今日の進歩を致したのであるが、人間はもちろん、生あるものは全て土から生まれ土に還る。これは生命の続く限り、未来永劫に繰り返す。そうして神はそれぞれの民族に自然安住の地を与えてくれた。大和民族の地が即ち日本の国土である。だから国土

追いつき、今やその中堅的地位に迫りつつあるが、今後十数年にして世界の主要酪農国として数えられるに至ることは明らかである。

わが国における現在の乳牛頭数は一六六万頭に達し、一戸当たり平均は約五頭となり、北海道においては約一頭を数えるに至つたが、地域的には二〇頭以上を達成している。

上に達している実情である。しかも今後は資本と貿易の自由化に備え、また他産業との所得格差を解消し、経営の安定と農民生活の向上の見地から、更に経営規模の拡大と合理化を進め生産性を高めて、国際競争に備えるため更に、一大躍進が要請されている。したがって酪農学園においてもこの新時代の要求にこたへるべく、教育施設と教育内容の改善に向けて万全の対策を講ずる必要に迫られている。

この目的達成のために、当学園は昨年より理解ある各方面の有識者の協力によって後援会が設立され、五か年計画により五億五千万円の募金を進めることと相成つた次第であつて、誠に



酪農学園理事長 黒沢西蔵

今回のこの計画を機会に学園報を刊行し、広く関係者各位に当学園の理想と現状並びに酪農に関する諸般の問題や、同窓生の活動状況等についての紹介と周知を図り、皆様との連絡を密にし、併せて学園の発展と酪農振興に資したいと存じ、懇々その発行を見た次第でこの点御理解を賜りたい。

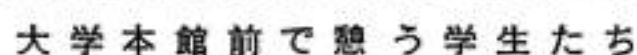
わが国の真の酪農発展は今後にあるが、わが国の産業経済が戦後僅か二十数年にして世界の驚異といわれる迄に発展しているにもかかわらず、農業はそれに比して立ち遅れていることは遺憾に堪えない。しかし今後の酪農教育の振興と酪農民の情熱と英智努力を以てすれば、必らずや先進諸国に劣らぬ偉大な発展を遂げることが可能と信ずる。ここに酪農学園だよりを発刊するに当り、心からこれを喜ぶと共に、関係者各位の御健勝と御事業の御繁栄を祈念し、併せて今後の御支援を御願ひ申し上げる次第である。

最高学府

酪農学園短期大学

由化の高波が押し寄せる中で、わが国農業は厳しい試練に立たされております。この重大な時期にあたって、農業の近代化と構造改善が急を要する課題として推進されていますが、とりわけ、わが国酪農の拡充発展とその国際的地位の確立は、日本農業の改善に最も大きく寄与するものと考えられております。このような状況において、高度な理論と実践力とを有する近代的

わが国唯一の酪農専門の学府である本学は、昭和八年に北海道酪農義塾として創設された酪農学園の歴史の中で、比較的新しい部局に属しています。日本農業の体質を酪農によって変革し、そのための有為な人材を養成せんとして、本学園を創設された黒沢西蔵先生（現園長）の志は、機農高校の開校（昭和十七年）通信教育機関としての高等酪農学校の開校（昭和二十三



ました。
創立者の
構想はこ
こで滞る
ことなく
昭和三十
五年には
酪農学園
大学酪農
学部酪農
学科の開
学に至り
ここに、
酪農を中
心とする
教育機関
が多面的
機能を備
えて体系

この体系は同時に各機関・部局の内的拡充を推進することによって完成されるのでありますが、開学以来来年で短大二十周年、大学十周年を迎えんとする本年度では、昭和三十八年には農業経済学科、次いで三十九年には獣医学科が大学に増設され、また短大では、昭和三十九年に第二

学部開学以来の卒業生就職状況

職 種	区 分	学 部 38~43 年度合計	全 体 比 率 %
乳 製 品 関 係		86	6.7
食 品 製 造 関 係		122	9.6
教 員 (中学・高校)		146	11.4
公 務 員 関 係		86	6.7
農 業 団 体 関 係		114	9.0
商 社・商 事 関 係		151	11.8
機 械 製 造 関 係		67	5.2
自 営		71	5.6
海 外 (留学・実習)		20	1.6
研 究 職 関 係		18	1.4
種 苗・飼 料 農 薬		43	3.4
報 導 関 係		13	1.0
金 融 関 係		3	0.2
進 学 (大学院・研究生)		29	2.3
酪 農 実 習 生		14	1.1
そ の 他		292	23.0
合 計		1,275	100.0

短大一部最近10か年の卒業生就職状況

職 種 \ 区 分	33～43 年 度	合 計	比 率 %
乳 製 品 関 係	103		13.0
食 品 製 造 関 係	30		4.0
学 校 関 係	19		2.0
公 務 員 関 係	39		5.0
農 業 団 体 関 係	57		7.0
商 社・商 事 関 係	77		9.3
機 械 工 業 関 係	28		3.0
自 営 及 び 農 場 実 習	232		29.0
農 業 改 良 普 及 員	14		2.0
農 業 試 験 場	3		0.4
進 学	130		16.0
そ の 他	77		9.3
合 計	809		100.0

ことに道義と価値観の混乱せる敗戦直後、この三愛精神を本学園の基礎とされたことの意義は大きく、今日の確乎たる倫理観を欠いた青年の惹起する社会問題を考えるとき、この建学の精神は本学の存在理由に大きな確信を与えるものとなつてゐます。

今一つ本学の特色に「実学教育」があります。象牙の塔にたてこもっていたずらに机上の空論をもて遊ぶのではなく、複雑多難な事態に対して科学的かつ実践的な思考をもつて主体的に実践する人間を養わんとするのが実学教育であります。短大開学時に、学生・教職員一体となつてレンガを積み校舎の基礎工に従事したことなどは時代が

時代だといへ、この実学の象徴的な出来事でした。実学は虚学に對するものであつて、単なる實用の学を意味するものではなく、現実的課題において創意を發揮し實際的な技術をみずから開発することのできる実践の学であります。かかる意味において、本学では大学一般のカリキュラムの他に酪農実習を重視し、理論と実習を有機的に体系づける努力を重ねております。

以上のような三愛精神と実学教育とによつて教育された本学の卒業生は大学が六期で二七五名、短大一部が十八期で二二六名、短大二部が三期で二五九名となっています。彼等の社会的活動の分野は、二部卒業生の九五%が自営である点、開設の趣旨からして当然であるとして、大学、短大一部について

昭和十七年。酪農学園の出發は自営者養成ということに尽きると思う。機農学校（甲種農業学校）が設立された趣旨は「北方農業の確立には、優れた自営者を育成することであり、そのためには、百姓は馬鹿でもできるといわれた観念を脱して、腕と能力を兼ね備えた農人に待たなければならぬ。そうした人材を送り出すのが機農学校の使命である」それは、学園の前身酪農義塾を創設された黒沢園長の信念であり持論であった。

そして設立の構想は、「北方農業を確立するために自営者を志して学ばんとする者は、貧しい小作人の倅であらうとその希望を叶てやらなくてはならない。頭の開発こそ北海道の農業開発であり、農民の生活と地位の向上である。そのためには授業料はとらないし、全寮制で食費も寮費も不要、裸一貫でやってこいという学校を」と実にすばらしい考えであった。

しかし、こうした情熱の農学校の創立には、莫大な資金を要するのは当然である。その難関である資金は、すべて北海道の酪農民が醸出したところに特色がある。当時は戦争たけなわで、それに即応するため、農業関係団体が統合されたのであるが、酪農民の協同組合である。酪連も北海道農業会に統合されることになり、一応解散ということになったのである。そして、酪連加入の組合員に出資金を返すことになったのである。

時の酪連会長の黒沢西蔵先生は「皆さんに分配してしまえば、やがて消えてしまふでしょうが、この金を全額まとめてわれわれの後継者を育成する学校を設立しようではありませんか。そして、ゆるぎない北海道農業百年の礎としようではありませんか——」と力強く呼びかけたのであった。

学園の創設と 自営者教育

そして「われわれの力で設立する農業学校は、現在見るような月給取り養成のありふれたものであつてはならない。真の農人養成の学校を」と教育方針をかかげ、組合員の一人一人を説得したのであった。

かくして、農民の力は結集され、農民のための学校として誕生したのである。農民の力で創設された学校は、おそらく全国には本学園が唯一のものであろう。かくして自営者養成の教育は、心身共にき

と育

全園の創設
自営者教

学自

たえる実学重視の農場教育に特色を持たなければならぬということから、野幌の現在地に一八〇畝の農場を買収し、そこに数戸の寮と農場附属舎を設け、生徒達は在学中、寮長と共に寮に起居して、農場生活の中に晴耕雨読ということのでふみ出したのである。

酪農学園は、創立当初から「実学」ということを重視している。これは、机上の学問だけでは役に立たない。実

習 実験を重視して消化されてこそ、ほんものの力となるんだとしているのである。従って農場の規模にしても、模倣的な見本ではなく、全国種に見る広大ものとし、乳牛にしても多頭数を飼育し、農場作業も牛舎管理作業も、実際農場経営を通して、十分腕をみがかれることをめざし、圃場すなわち教室という考えのもとに進められたのである。

次々と設立され、教育内容にも変遷を見たが、自営者養成教育につながる実学重視の教育は一貫して今日に至っており、機農高校に学ぶ生徒諸君は、その全員近くが後継者として学園創設の目標を実現している。

現在農機高校と共に自営者養成教育の中軸となっているものに短大二部がある。多くの卒業生は自営に進んでいるが、中でも農閑期を利用して学び、短大の卒業単位を取得する自営後継者の学生諸君は、その全員が農家に帰っている現況で、このことは自営者教育をめざす本学園の特色としてよろこびにたえないところである。

現在、わが国の農業高校のあり方については、再検討が加えられた結果、自営者養成の目標と施策が行なわれ、農場教育を重視する寮教育が各都道府県で実施されつつあることは、農業教育のあるべき姿と考え、喜ばしいことであるが、わが酪農学園においては、既に創設以来実施してきた教育方針であり、今更ながら自営者養成を目標とする、教育構想が卓抜していたことに一層の自信を感じる次第である。最後に学園創設に協力された農民諸賢と、その発展にご援助いただいて今日に至った各位に心から感謝の意を表する次第である。

別表の示すとおりとなつています。(但し短大一部は三十三年度卒業生以降のものとなつています。)

大学の場合、乳製品・食品製造関係が合計して一三・四％となつており、次いで商社が一・八％を示しております。前者は主として酪農学科の卒業生が、後者は、農業経済学科の卒業生がそれぞれ大半を占めております。乳・食品関係についていえば、今後更に進出を期待してゐるところであります。獣医学科はまだ二回しか卒業生を送り出しておりませんが、獣医師国家試験は第一期生が八七・四％、第二期生が九七・四％の好成績にて合格しており、その任地も道

ております。短大一部になると自営が約三割を占めています。その他大学短大とも農業団体・公務員(農業関係の)など、職種は各方面にわたつており、広い意味での農業指導者として活躍しているといえましよう。やがて、クリスマス、学生達はそれぞれに勉学の業に励んでおります。素朴にして純真な性格の学生が多く、農業人としての様々な抱負と関心をもつて学園生活を営んでおります。

下の壁に、黒沢園長の筆になる次の言葉がはめ込まれてゐる。「機を知るは農の始めにして終りなり」校名の機農について、昭和十七年の開校の際、認可申請を文部省に提出した時に問題になり、当時の校長である黒沢園長が「天地の機微を知るのが農業の真づいであつて」と、園長の農業哲学を披きし、認可になったといういわれがある。



第1表 生徒数(44.5.1現在)

1年	2年	3年	計	道内	道外
94	129	111	334	293	41

第2表 出身地別生徒状況

	40年	44年
渡島	5	3
山根	6	2
後志	13	8
胆振	20	8
日高	13	16
石狩	32	14
空知	42	
上川	52	
留萌	10	1
宗谷	9	10
十勝	53	48
網走	75	99
釧路	23	22
根室	18	20
計	51	41
	422	334

生、教職員、それぞれ機関を通して互に個別に十分な話し合いを持つことにより、問題解決に努力しております。

昨年度より本学の施設整備五か年計画がたてられ、近い将来には酪農学科を中心とする総合校舎の建設が約束されております。

日本の農村を荷なう、真の農業者の養成を目指し、全寮制と広大な農場での生きた実習(実学)を掲げて発足した本校も、本年で二十七年の歴史を数え、二、八三六名の卒業生を社会に送り出している。その間時代の變遷と共に、教育の内容、方法は変つたが、建学の理想と精神は今もなお脈々と流れてゐる。

第3表 志願者数、入学者数状況

	40年	41年	42年	43年	44年
志願者数	353	321	292	349	308
入学者数	143	146	121	131	94

第4表 卒業生進路状況

	41年3月	42年3月	43年3月	44年3月
卒業生数	135	139	132	138
農業従事者	102	113	105	112
就職	8	6	9	4
進学	25	20	18	22

注 進学の大部分は、酪農大学および同短大で卒業後農業に従事する者がほとんどである。



バター製造実習—乳製品工場—

内では各地域におおむねゆきわたつております。大学全体で注目されるのは、教員になつた者の数が意外に多いこと、で、本学がとくに教員養成に力を入れているというわけではありませんが、本学を巣立った約一二％の者が主として道内のしかも地方の酪農地帯で教育を通じて良き農業人の育成にあたつてゐることは、大学の酪農人育成の使命を自からがもつた結果だと考え

私も教職員はこのことを深く感謝しつつ本学所期の目的がいかなく達せられるよう、そのための努力を惜まぬ所存であります。

最後に日頃学園とりわけ本学のためにご鞭撻、ご協力下さつてゐる多くの方々に衷心よりお礼を申し上げ、本学の概括的な現況報告を終らせていただきます。

昭和三十八年より、従来農村の二、三男教育として続けてきた農村経済科(当初は農業協同組合科)を廃止し、農業科を酪農経営科に改め、名実共に酪農教育に集中すると共に、本年度より間口を二学級制として、さらに教育内容の充実をはかるべく、計画を進めてゐる。

本年度生徒数は、在籍総数三三四名で、うち二九三名が道内出身者で、道外は四一名であるが、これは総数の一二％にあたる。県別では青森県の一四名が最も多く、千葉県の五名、岩手県、福島県、秋田県の三名が続き、分布は一部、一三県に及んでいる。道内では、網走支庁の

自営する者を併せると、自営率は九〇％を超え、本校の教育目的が達せられてゐることが解る。また卒業生中、アメリカを始め、デンマーク、オランダ、カナダ、西ドイツ等に海外実習に行く者が多く、ここ三、四年の間に五十余名が渡航してゐる。

全寮制度を特色とする本校の寮教育も、同校当初の農場と寮との密接な結びつきは、形を変

後継者育成の全寮制教育

酪農学園機農高等学校

機農高等学校の開校二十周年記念式典が、学園の創立三十周年記念と、併せて行なわれたのは、昭和三十七年十月である。この日に機農高校の本校舎(鉄

筋三階建延一、四六五平方メートル)落成が同時に行なわれた。この建物は、北連、信連、共済連の農業三団体の寄附によるものであるが、この新校舎の一階廊

下には、黒沢園長の筆になる次の言葉がはめ込まれてゐる。「機を知るは農の始めにして終りなり」校名の機農について、昭和十七年の開校の際、認可申請を文部省に提出した時に問題になり、当時の校長である黒沢園長が「天地の機微を知るのが農業の真づいであつて」と、園長の農業哲学を披きし、認可になったといういわれがある。



機農高等学校生の農場実習風景

えざるを得なくなつた。即ち、大学始め多くの教育機関が学園内に設立されたことと、農場そのものの近代化・大規模化のため、様相は一変してゐる。かつて七つの農場の七つの寮に、一年を除く二、三年が分峰してゐた時代と比べて、農場も大学実習農場と機農高校実習農場(中央農場)に分割されて、中央農場内の自由、希望寮に本年度は三年生が入つてゐる。二年生は大志、曉鐘、機農寮に三分し、一年生は青峰寮に全員が収容されてゐる。各寮には寮長の他寮監が一、二名、寮監助手(酪農大学生)二名が配置されて、生徒の指導にあたつてゐる。

寮教育のあり方は、教育の理想が高ければ高いほど、困難がつきまとう。愛神、愛土、愛人の三愛精神の基である聖書の教えを、いかに生活の中に具体化してゆくかに鍵があるが、まず身近に、協同奉仕、自主自律の精神育成を目標にしてゐる。しかし、三カ年の寮生活の成果は、卒業後にいろいろの形で実を結ぶことをわれわれは確信してゐる。

校舎、管理棟の新築に続いて、昭和四十二年には雪印乳業の好意によって、待望の体育館(延九八四平方メートル)の完成をみた。残るのは農場の整備と共に、更新期にきてゐる寮の新築である。



三愛女子高等学校校舎

農場の寮は別として、二〇〇名程度収容の統合寮の新築が本校の今後の課題である。教育の具体的内容や、生徒の生活状況、各クラブ等の活動状況は、紙面が尽きたので、次回にゆずり、機農高等学校の報告とする。

聖書を基盤に歩む

三愛女子高等学校

黒沢西蔵先生は基督教に基づく神、人、土を愛する三愛精神に立脚して、酪農人の育成と酪農の科学的研究を目的とする酪農学園を設立されたが、更に社会の要望と時流を洞察されて、三十三年四月普通課程の女子高校として本校を開校された。

先生の女子教育の構想は、世間でしばしばいわれる観念的な人格形成論に終始するものではない。前述の三愛精神を基盤として女性の特質や個性を伸ばし、家庭並に社会に奉仕しうる具体的な女性像を目標とされてゐる。従つて学校の日課に礼拝と聖書を課し、清浄な霊性の啓蒙と倫理感を培い、教育課程も規定の教科の外に、生徒が自分の進路と能力を考えて選択しうるよう「家庭一般」の外に、さらに乳製品・畜産の学習、食品の貯蔵加工、園芸、手芸等履修ができ、さらに必要とあらば併設の大学、機農高校及び附属農場の授けを得て小家庭、家庭飼育の用意もしようかという、およそ既存の普通高校には類例のないユニークなものであつた。教職員、生徒はいずれも草創の希望に燃え学窓生活を展開し、校風の形成につとめたのである。しかし、一方戦後十数年を経

過した国内情勢は再建日本経済の成長と繁栄の上昇を見せ、ひいては消費経済の態様と世人の価値観を変え、また校下社会の都市化現象などの影響および高校教育課程の改定や制約もあつて、年毎に生徒の教科選択の傾向が變り、従つて教育課程の修正が行なわれたりして、今日に至つてゐるのである。今後、総合開発第三期計画が進展するに伴い、本道の産業、並びに社会構造も變貌することであろうし、中学卒業生の減少と高校進学率上昇現象を背景に高校教育の多様化問題を踏まえて、新たな機運に向つてゐるのである。



三愛女子高等学校校舎

創立者の決意を想起し、新らしい時代に立ち向ふねばならぬことは言をまたぬところである。因みに現況の一部を記すると、現在在校生八百三十五名、十八名、講師十五名、生徒の出身地は江別市および周辺町村から六二％、札幌市から二七％、他支庁管内一一％。施設の主なものをあげると、礼拝堂、第一、第二体育館、音楽館、器樂練習室、理科、調理被服実習室、茶道作法室、美術アトリエ、図書室、生徒会室その他、教具としてはVTR、東北以北最大のコンサート用・パイプ式電子オルガン(クロダトーン)ピアノ三台、オルガン三台、テープレコーダー六台、スライド映写機一台、ミシン十五台、顕微鏡二十余等その他であるが、さらに教具教材の充実をはかり、学習効果をあげることを期して新年度への希望をもつてゐる。



酪農学園後援会の設立と活動について



植村 甲午郎 会長

昭和三十五年酪農学園の後援を目的に町村知事が会長となつて、酪農学園後援会が設立されたが、さしあたっての事業として、学園の施設充実を要する資金一億五千万円の募金を行なつたのである。広く各界のご支援を得て目標額を達成し、その資金をもつて大学校舎及び実験室等二〇三六坪、機農高校校舎及び体育館五〇三坪、三愛女子高校講堂及び体育館四〇〇坪の施設充実を行なうことができ、学園が今日の教育成果を収める上に多大の貢献をしてきたのである。その後、後援会活動は暫く休止の状態になっていたが、昨年十二月十六日関係者の懇談会において、これまで申し合せ団体であった後援会を財団法人に改組し、社会的要請である酪農教育振興のため、充実した後援活動の再発足を行なうことになり、その後世話人により立案された構想が今年二月十四日の発起人会で承認されて三井武光氏が設立発起人代表となつて財団法人設立許可申請の手續きをと、十一月十八日付文部省委管第十四号により許可を得た。この新しい後援会は財界を初め、農業団体、乳業関係、地方自治体個人並びに卒業生と、幅広く会員になっていただき、会長には植村経団連会長、副会長には高橋北海道農業協同組合中央会長、瀬尾雪印乳業株式会社社長、三井クレードル興業株式会社社長又理事長には各界より二十

後援会事務局

五名の御就任を戴き、尚評議員、顧問についても各界の方々を御推挙御就任いただく事になつてゐる。既に後援会活動として基金造成と学園の施設充実及び財政援助のため総額五億五千万円の募金計画を樹て、それぞれの協力組織を通じて目下着々運動を展開してゐる。

次に設立の趣意、後援会の概要、募金計画、資金の使途、又寄附に対する税の優遇措置等について参考までに略記する。

設立の趣意

酪農学園は酪農業後継者をはじめ、幾多の人材を輩出し世の注目を集めてゐるところであるが、国の総合農政における酪農の使命が一段と強調されてゐる折柄、酪農学園の教育に対する期待が益々大きくなり、然るに財政的に恵まれない私学、殊に酪農学園の如く理科系私学においてはその教育効果を期する上での反面、学生生徒数は比較的少数のため教育効果を期する上での財政上の負担は一層容易ならぬものがある。従つて財政確立のもとに教育内容の充実を図り酪農学園の使命達成を援助するため、財団法人酪農学園後援会を設立するに至つたのである。

後援会の概要

後援会活動の充実と継続性をもたせるため、下記内容による財団法人とする。

目的

学校法人酪農学園が設置する学校における教育を助成するため、酪農学園に対し財政的な援助を与え、もつて教育の

振興に寄与することを目的とする。

事業

前記目的を達成するために、次の事業を行なう。①酪農学園の施設、設備の整備拡充費に対する助成、②酪農学園の維持運営費に対する助成、③酪農学園における学術調査研究に対する助成、④その他前各号に掲げる事業に付帯する事業。

後援会会員

この法人の目的及び事業に賛同し後援する者（団体を含む）は、次に掲げる後援会員になることができる。

- ①賛助会員 費一年額壹千円以上壹万円未満（一〇〇〇円を単位とする）又は一時会費壹万円以上拾万円（一〇〇万円を単位とする）を納める者及び会長の推薦する者、②特別会員 会費年額壹万円以上（一〇〇万円を単位とする）又は一時会費拾万円以上（一〇〇万円を単位とする）を納める者及び会長の推薦する者、③名誉会員 一の法人に対し、特に功勞のあつた者のうちから理事会の議決をもつて推薦する者。

- ④役員、評議員及び顧問 理事、十八人以上二十五人以内（うち一人を会長、三人を副会長、二人を常務理事とする）、⑤監事 二名以上三名以内、⑥理事

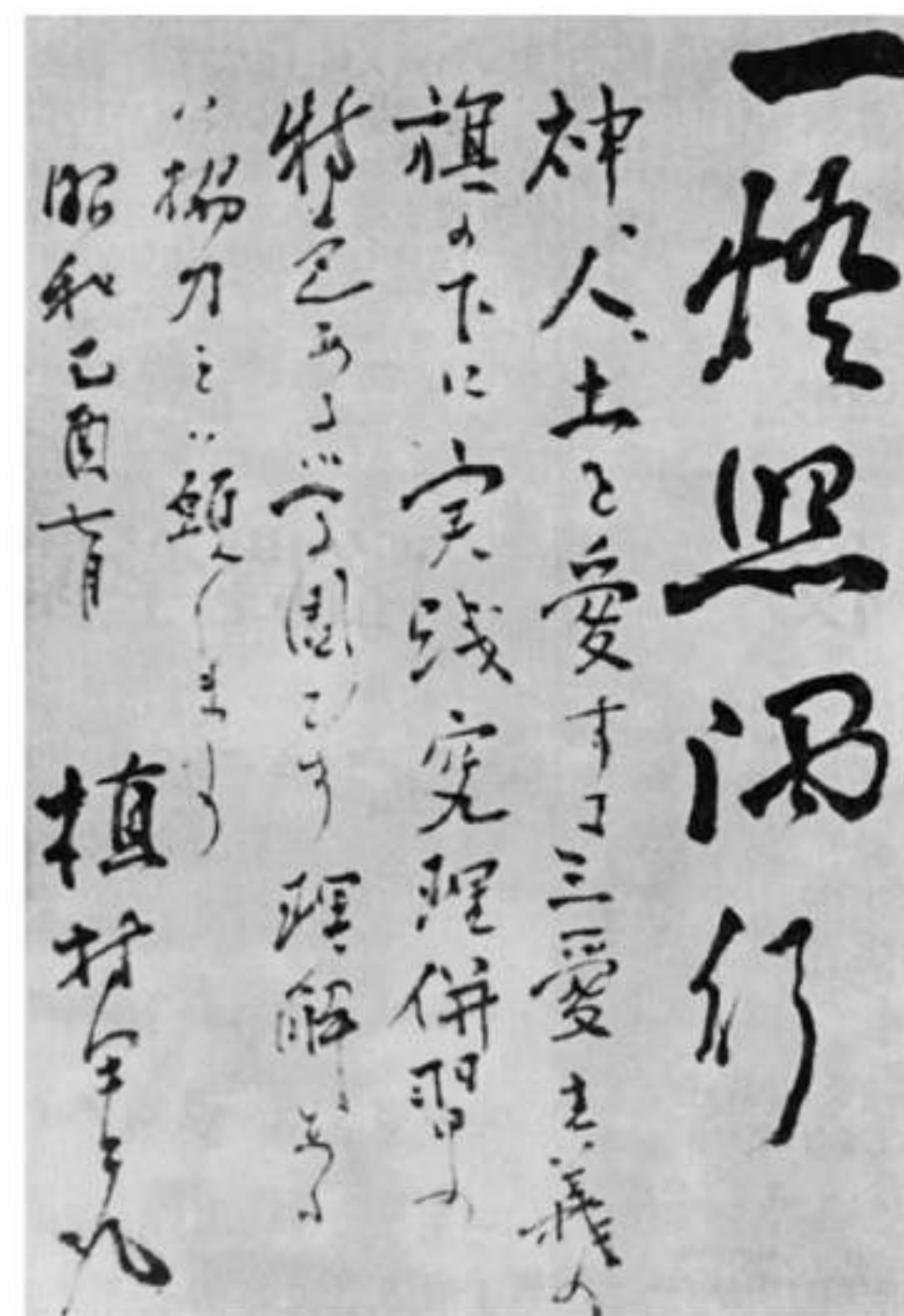
及び監事は評議員会において選任する。会長、副会長及び常務理事は理事の互選とする。④理事は理事会を組織して、この法人の業務を議決し執行する。⑤評議員五十一名以上五十五名以内。⑥評議員は評議員会を組織する。

より理事会でこれを選任し、会長がこれを委嘱する。

①組織活動
②会運営の円滑を図るため、理事のうちより一二名をもって常任実行委員会を設ける。
③道外における後援会活動を進行するため（学園東京事務所内）に後援会東京本部を設け常務理事一名を置く。④東京大阪、その他、必要な地区に協力会を設け後援会活動の強力な推進を図る。⑤酪農学園報を年に三回発行し、これを後援会関係者に送り学園への理解を深めるようにする。

資金の使途

1 酪農学園後援会基金	二〇〇、〇〇〇千円
2 酪農学園施設費	二〇〇、〇〇〇千円
3 大学及短大総合校舎（附属設備含む）	一五〇、〇〇〇千円（内訳）
4 大学三、四五六、二m	一五〇、〇〇〇千円
5 実習農場家畜舎外（附属設備含む）	二、三三三、m
6 四七、〇〇〇千円（実施済）	
7 大学及短大寮	一五〇、〇〇〇千円
8 短大二、七三五、m	一五〇、〇〇〇千円
9 一五三、〇〇〇千円（実施済）	
合計	五五〇、〇〇〇千円



税の優遇措置

①この法人の財産は、基本財産及び運用財産の二種に分ける。②基本財産は財産目録の部に掲げる資産及び将来基本財産に編入される資産を以て構成する。③運用財産は基本財産以外の資産とする。

資産の種類

この法人の資産は、理事会の議決によつて会長が管理し基本財産のうち現金は確定有価証券を納入するか、又は確定有価証券に信託するか、又は定期預金として会長が保管する。

算にあつて、これらの寄付金の額の合計額をその計算の対象から除外することを定め、限度計算の対象から除外された額は当該事業年度の損金の額に算入されることになる。

（イ）財団法人酪農学園後援会基金二〇〇、〇〇〇千円に該当する寄付金は、後援会が法人税法第三十七条第三項第三号の規定に該当する法人であること、証明する文部大臣の書類を、御寄付下さつた法人におわたしする。確定申告書に、この書類と寄付金の明細書の添付があれば法人税の特例措置が認められる。通常法人が各事業年度において支出した寄付金の額の合計額のうち、政令により、計算上定められた損金算入限度額を超える部分の金額は、その法人の各事業年度の所得の金額の計算上損金に算入しない（法人税法第三十七条第二項）ことになつてゐるが前記法人税法第三十七条第三項第三号の規定では「財団法人酪農学園後援会」の如く教育に対する助成を主たる目的とする法人に対する寄付金（法人税法施行令第七十七条第二号のホ）は損金算入を認められることとなる。但しこの種の寄付金の合計額が当該事業年度に係る損金算入限度額を超える場合には当該損金算入限度額に相当する金額までを（即ち損金算入限度額と同額迄を別枠として認められることになる）特例の適用対象として損金算入を認められる。

編集後記

酪農学園だより第一号を発刊して今日までご支援下さつた関係各位始め父兄各位に配布して学園の現況と教育の真摯を一層ご理解していただき、更に厚いご支援を願うものである。尚学園の今後の発展を期するため財団法人酪農学園後援会が設立されて会長には経団連会長の植村甲午郎氏を戴き学園として大きな力を得て今や農業の体質改善が強く叫ばれてゐる折柄後援会各位の一層のご協力のもとに施設整備と教育内容の充実を図り初期の目的達成に努めてまいりたい。（K）

年間支出の寄付金合計額一年分所得合計額の3%（年分所得合計額の15%限度）（10万円を超える時は10万円限度）

例（イ）年間100万円の所得者が15万円私立学校及公益法人に寄付すると（私立学校の場合は指定寄付）控除額は

A 100万円×15%=15万円
B 100万円×3%=3万円
A-B=12万円—所得控除額

（ロ）年間500万円の所得者が100万円私立学校及公益法人に寄付すると（私立学校の場合は指定寄付）控除額は

A 500万円×15%=75万円
B 500万円×3%=15万円
A-B=60万円—所得控除額

（注）年所得合計額とは事業配当、不動産、給与、譲渡、その他の所得の合計額を指す。

昭和
45年度

酪農学園学生・生徒募集案内

酪農学園大学

- 農業の近代化，科学的，文化的な農人の養成およびその指導者を養成する。
- 酪農技術指導の出来る獣医師を養成する。

■酪農学部
(共学)

酪農学科	160名
農業経済学科	100名
獣医学科	40名

	推薦入学	第一回募集	第二回募集
願書受付	12月17日～1月12日	1月12日～2月5日	2月23日～3月19日
試験日	1月17日(土) 1月18日(日)	2月11日(水)	3月26日(木)
試験場	本学・東京 京 都	本学・東京・京都	本学・東京
試験科目	小論文・面接 ※出身学校長の推薦書 が必要 (書類選考)	酪農学科 獣医学科	英語B・数学Ⅰ・ⅡB 理科(生物・化学)より1科目 選択
		農業経済 学 科	英語B現代国語(作文を含む) 社会(政治・経済, 日本史)より1 科目選択

- 教職課程・酪農育英会および学寮がある。
- ※入学案内・願書=送料共150円(郵券可) 詳細は入試係へ
069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別)②2542

酪農学園短期大学

■募集人員(共学)酪農科……100名

	推薦入学	第一回募集	第二回募集
願書受付	12月17日～1月12日	1月12日～2月5日	2月23日～3月19日
試験日	1月17日(土) 1月18日(日)	2月11日(水)	3月26日(木)
試験場	本学・東京 京 都	本学・東京・京都	本学・東京
試験科目	小論文・面接 ※出身学校長の推薦書 が必要(書類選考)	英語B, 数学Ⅰ・ⅡB 理科(生物・化学)より1科目選択	

- 農業改良普及員の受験資格および人工授精師の資格を取得することが出来る。
- 酪農育英会および学寮がある。
- ※入学案内・願書=送料共150円(郵券可) 詳細は入試係へ
069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別)②2544

■酪農学園短期大学Ⅱ部(季節制)

- 募集人員(共学)酪農科……120名
- 願書受付 1月20日(火)～3月19日(木)
- 試験日及び場所 3月26日(木) 本学・東京
- 推薦入学 書類選考・小論文・面接
- ◎畜産・畑作園芸・水稻を選択専攻する。◎学寮がある。
- ※入学案内願書等詳細については100円(郵券可)封入の上, 下記に請求して下さい。
- 酪農学園短期大学二部入試係 069-01江別市西野幌 582 TEL(江別)②2544

三愛女子高等学校

- 建学精神と目的 キリスト教に基づく神, 人, 土を愛する三愛精神を基調とした奉仕の精神をもって, 家庭と社会に活躍する女性の使命と誇りを自觉させる全人教育。
- 募集人員 普通課程 1年 300名
- 願書受付期間 昭和45年2月1日より25日まで(当日消印有効)
- 考査日と考査科目 3月2日, 前9時受付, 国数英3教科と面接
3月3日 面接
- 合格者発表 3月21日 正午 本校
- 入学手続切 3月25日(当日消印有効)までに, 入学一時金を納め登録すること。登録後は事情の如何にかかわらずご返却致しかねます。なお入学金と建設寄附金は入学時, 2年目3月, 3年目3月との3回に分割納入ができます。
- 寮について 隣接して50人収容の寮施設があり, 近郊通学者は冬季のみ入寮ができます。
- 奨学金制度 日本育英会の外に酪農学園奨学金制度があります。
- 通学の方法 野幌駅から徒歩18分, 国鉄バス3分, 札幌駅前からは40分
- 経費 入学時受験料, 2,000円, 入学金5,000円, 建設寄附金28,000円, 生徒会入会金100円, PTA入会金300円
毎月授業料(3,200円)維持金(1000円)図書及び施設費100円, PTA会費200円, 生徒会費100円。
- その他 学校要覧, 及び志願のしるべ等は各中学校にあります。又返信料20円切手を添えて本校にお申下さい。

酪農学園機農高等学校

- 特 色 聖書に基づく人格教育, 全寮制度による生活教育, 近代農場による実業教育によって新しい時代を担う酪農後継者を養成する。
- 募集人員 酪農経営科 男子約90名
- 願書受付 昭和45年1月20日から2月25日まで
- 手 続 中学を経由し本校所定の願書を提出のこと。
- 入学試験日 昭和45年3月2日(月)8時30分より
- 試験場 本校, 帯広, 北見, 盛岡, 東京
- 選 抜 方 法 筆記試験(国語, 数学, 社会, 理科, 英語)及び面接
- 合格発表 3月21日

文部省認定
通信教育

酪農学園短期大学酪農学校

働きながら学ぶ農業近代化教育です。入学資格 学歴, 年令を問わない(年間随意入学)。

- ◎教材配布～教科書 指導書補助教材
- ◎指導方法～本校及地方出張面接指導, 質問解答, 添削指導, 質疑応答

■酪農科 募集人員 2,000名(2年で卒業)

酪農を基盤としての農業近代化への基礎教育

- ◎入学金200円・授業料年5,000円, (一時納入4,800円)・講座の他各種指導教材配布。

■農業経営科 募集人員 2,000名(3年で卒業)

農業企業化への経営設計と診断及び簿記々帳の実際指導教育,
経営設計 (分析, 設計, 診断の実際)

農業簿記 (やさしい複式簿記, 青色申告)。

- ◎入学金200円・授業料年4,000円, (一時納入3,800円)

■家庭科(北海道教育委員会認定)募集人員500名(2年で卒業)

豊かな明るい衣, 食, 住の近代的家庭生活と主婦の教養を高める。

■近代酪農部

「近代酪農」誌を講座とし, 他に経営必携書を教材として, 現地の経営及び診断を指導, 地方研究グループには本校講師出張無料指導。

- ◎受講料年額2,000円

069-01 北海道江別市西野幌 582 TEL(江別)②2543
酪農学園東京事務所
東京都新宿区若葉町2の5(丸福ビル)TEL東京(341)0904